

シンポジウム 「語ろう瀬戸内市の未来」



シンポジウム「語ろう瀬戸内市の未来」が30日、山陽新聞社の地域ふれあい事業「地域にエール」いきいき瀬戸内の中心行事として、同市邑久町の邑久町

公民館で開かれた。市民ら約300人が参加し、パネルディスカッションなどを通して合併後の新しいまちづくりを真剣に考えた。日本政策投資銀行岡山事

務所の傍士銚太^{ほうしせんだ}所長が「人が輝く地域づくり」と題して基調講演。個の「自立」を基に、住民が力を出し合って、地域を輝かせることの大切さを訴えた。



新しいまちづくりについて熱心に討議したパネルディスカッション



発行所
山陽新聞社
本社・新聞製作センター
岡山市新屋敷町1丁目1番18号
©山陽新聞社 2005

号外

まちづくり 熱く議論

山陽新聞購読のお申し込みは
フリーダイヤル **0120**
サンヨーヨミタイ
34-4301



基調講演する日本政策投資銀行岡山事務所の傍士銚太所長

パネルディスカッションでは藤原知明山陽新聞社論説委員会主幹がコーディネーター、旧邑久郡3町で伝統文化の伝承、観光振興、スポーツ指導、子育て支援、地産地消運動などに活躍する住民6人がパネリストを務めた。

6人はそれぞれの取り組みや課題も踏まえ、夢や新市への期待を熱く語り交わした。コメンテーターの立岡脩二市長、板野忠司備前県民局長も加わり、地域の歴史や自然を生かした観光や文化振興、少子・高齢化時代に対応した福祉の在り方などについて意見交換した。

シンポジウムの会場

